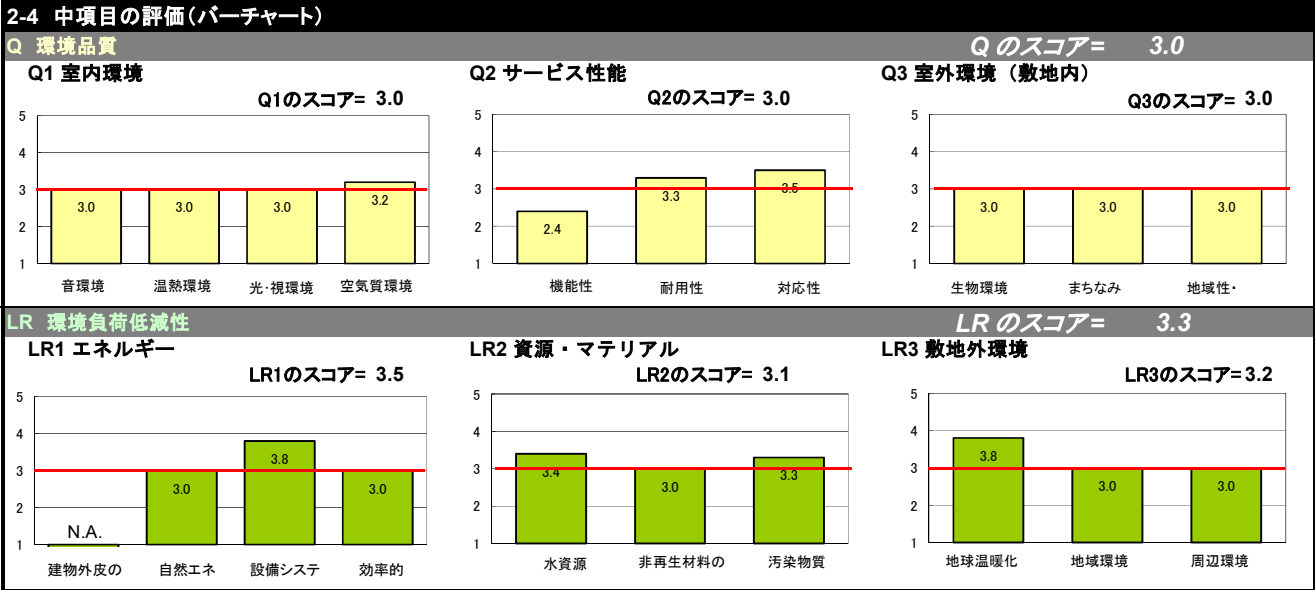
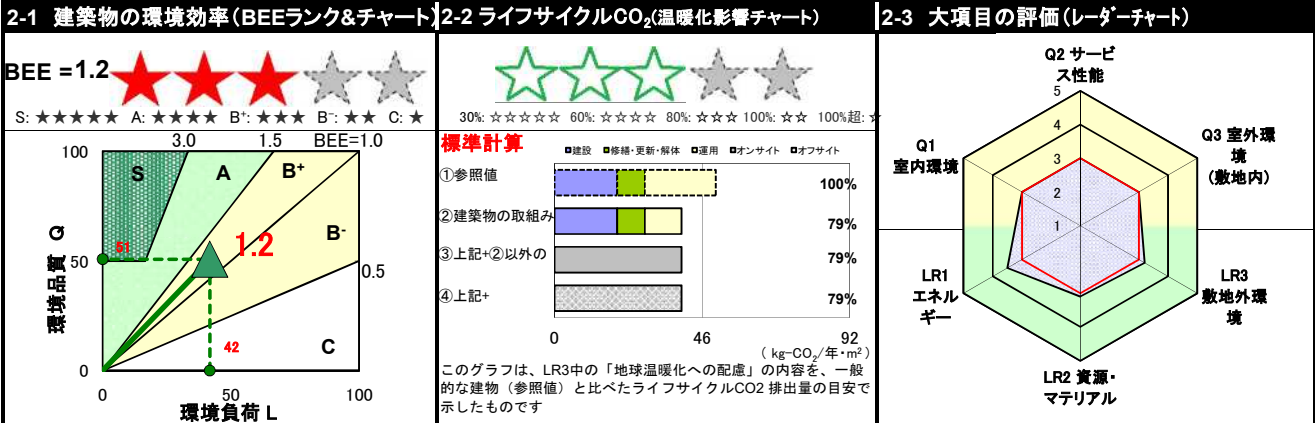


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	株式会社クラベ 篠原工場 新商品	階数	地上2F	
建設地	静岡県浜松市中央区篠原町1231-2	構造	S造	
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)、防	平均居住人員	60 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2025年6月 予定	評価の実施日	2024年10月18日	
敷地面積	1,888 m ²	作成者	林 和良	
建築面積	1,370 m ²	確認日	2024年10月25日	
延床面積	2,400 m ²	確認者	大岡 成光	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
使用材料に配慮し、サービス性能を向上させると共に、空間にゆとりを持たせた設計としている。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
必要換気量の1.4倍以上となっている。	事務室、食堂:天井高2.7m以上 ALC外壁耐用年数:50年 ビニルクロス貼耐用年数:20年 給水管:ホリフレ管、排水、通 気管:VP管 階高:3.9m以上 壁長さ比率:0.28 非常用発 電設備、2箇所の変電所引込 ケーブルラック設置	外構緑化指数:67%を確保している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BEIm=0.52	節水コマに加えて、省水型便器を採用している 床下断熱材:ミラフォーム(ノンフロン断熱材)を使用し ている	ライフサイクルCO ₂ 排出量:78%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要											
建物名称	株式会社クラブ 篠原工場 新商品管理棟新築工事					BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★	
2. 重点項目への取組み度											
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価				
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.6	/5	    				ふつつ				
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.1	/5	    				ふつつ				
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.4	/5	    				ふつつ				
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	3.0	/5	    				ふつつ				
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例		よい 4 点以上 		ふつつ 3 点以上 		がんばろう 3 点未満 		
3. 重点項目についての環境配慮概要											
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。						内訳対応項目					
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)						得点		3.6			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ALC外壁耐用年数:50年 ビニルクロス貼耐用年数:20年 給水管:ポリエチレン管、排水、通気管:VP管、Eは不使用					Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
						Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
								3.2	3.2.1	③	昼光制御
						Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
								2.2.2	2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
								2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
								2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
								2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
								2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 外構緑化指数:67%を確保している。					Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) BEIm=0.52					LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
							2			⑧	自然エネルギー利用
							3			⑨	設備システムの高効率化
							4	4.1		⑩	モニタリング
								4.2		⑩	運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 節水コマに加えて、省水型便器を採用している 床下断熱材:ミラフォーム(ノンフロン断熱材)を使用している					LR-2	1	1.1		⑪	節水
								1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
									1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
							2	2.1		⑫	材料使用量の削減
								2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用
							2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
							2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
							2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
							2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
						3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用	
							3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
							3.2.2		⑬	断熱材	
							3.2.3		⑬	冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ライフサイクルCO2排出量:78%					LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
						2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)						得点		3.1			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 非常用発電設備、浸水の危険性ない、2箇所の変電所から引込					Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
									2.1.2	⑯	免震・制振性能
								2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
									2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
									2.4.3	⑰	電気設備
								2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
								2.4.5	⑰	通信・情報設備	
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)						得点		3.4			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 事務室、食堂:天井高2.7m以上 かつ窓設置 階高:3.9m以上 壁長さ比率:0.28 ケーブルラックを設けている					Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
							3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
									3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
						Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)						得点		3.0			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし					Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
							2			㉑	まちなみ・景観への配慮
							3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
						LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
						LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善